

ひびき通信

平成 25 年
4 月版

万一に備え本番さながらに消防・避難訓練を実施

多摩消防署から隊員 12 名とポンプ車 2 台が参加

全員整列して訓練内容を確認
訓練スタート！



出火場所を特定！
本番さながらにホースを展開



駐車場に現地本部！
入所者の状況を的確に報告



重要な初期消火！
職員も水消火器で消火訓練



夜間に厨房から出火を想定

通報から消火、救助までをシミュレーション

在宅サポートセンター生田の消防避難訓練がこのほど、川崎市多摩消防署との合同により当センターで行われました。今回の訓練にはポンプ車二台が出動。夜間、厨房から出火したとの想定のもと、職員たちは酸素ボンベに耐火服を装着した隊員たちと一緒に、本番さながらの訓練に参加しました。

川崎市による防火体制の立ち入り検査がこのほど実施されました。検査には川崎市介護保険課、まちづくり局などから六名

川崎市の防火体制 立ち入り調査

が来所、主任より、日頃の入所者の状況や防火体制について説明を受けたあと、フロアや各居室、廊下や宅老所の状況を点検。

また、スプリンクラーや防火扉の設置状況を確認しました。立ち入り検査の結果、特に問題なしとの確認をいただきました。

あわてずに消防署に通報



逃げ遅れた利用者を発見



今回の消防避難訓練は、長崎市で発生したグループホーム火災を受け、多摩消防署の主導で実施されたもので、地元の栗谷消防隊と菅消防隊から隊員合わせて十二名が参加。センターからはグループホーム、デイサービス、事務職員あわせて八名が

参加しました。訓練は、夜間、厨房から出火、お年寄り一名が逃げ遅れたとの想定でスタートしました。夜勤職員からの通報を受けて、現場に到着した隊員たちは、ホースをつなぎ出火場所となつた厨房付近への消火訓練を行う

と同時に、逃げ遅れた高齢者を助け出す救助班は、酸素ボンベを装着し本番さながらの救助を実施しました。訓練のあとは、水消火器を使った消火訓練も実施。職員たちは隊員たちから操作説明を受けながら、消火器の使い方を確認しました。

訓練終了後には、火災が発生した時の注意点として、必ず通報すること。状況や住所を言えなくても、発信番号から場所は特定できること。また火災が天井にまで燃え移った場合は初期消火はあきらめ避難を最優先することなどを確認しました。